

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 東本願寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 広大な敷地のうち西側は一般の立ち入りができない。
- ・ 北側には中高層建築物が少ないため、遠くに山の稜線が見える。
- ・ 京都駅が近くにあることから、南側及び南東側には、多くの中高層建築物が立ち並ぶ。



1-1 参拝接待所南から西への眺望
：境内建築物以外は見えない。



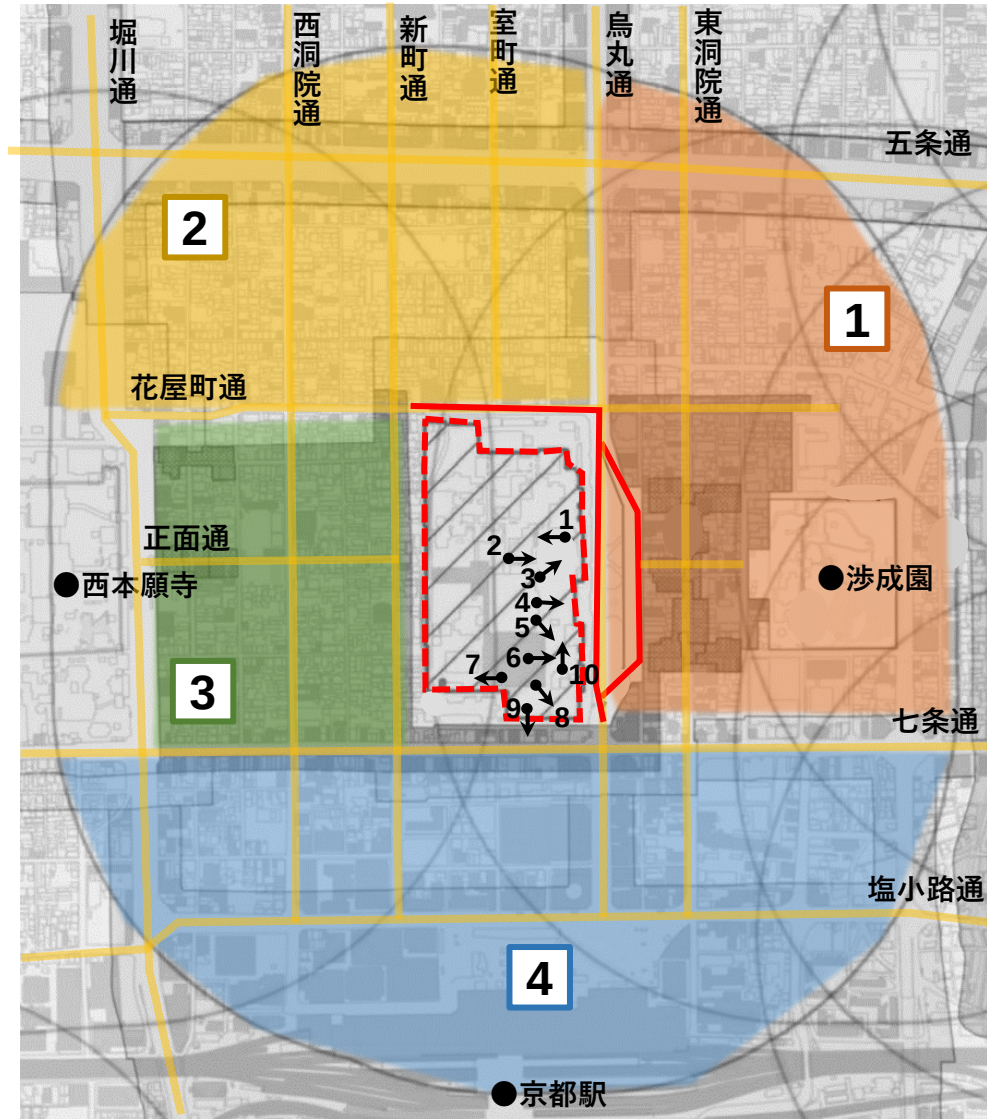
1-2 御影堂北側から東への眺望
：境内建築物以外は見えない。



1-3 境内南端から北への眺望
：境外の建築物は見えない。



1-4 御影堂東側から御影堂門への眺望
：周囲の建築物は植栽により見えない。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 御影堂南東角から南東への眺望
：京都駅周辺の建築物が多く見える。



1-6 阿弥陀堂東側から東への眺望
：京都駅周辺の建築物が多く見える。



1-7 阿弥陀堂南西角から西への眺望
：近代的な建築物が瓦葺き屋根の間から見える。



1-8 阿弥陀堂南東角から南南東への眺望
：京都駅周辺の建築物が見える。



1-9 阿弥陀堂南から南方向への眺望
：京都駅周辺の建築物が連なって見える。



1-10 総合案内所北西角から北北西への眺望
：マンションの一部が見える。

2 東本願寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・東西両側は古くから本願寺に出入りする仏具店や法衣店、旅館などがあり、寺内町を形成している。町家も残り、小区画の住宅が立ち並ぶ。
- ・南側の京都駅周辺は、ホテルや商業施設が立ち並ぶ。



2-1 間之町通から南への眺望
：昔ながらの商店街の先に京都駅ビルが見える。



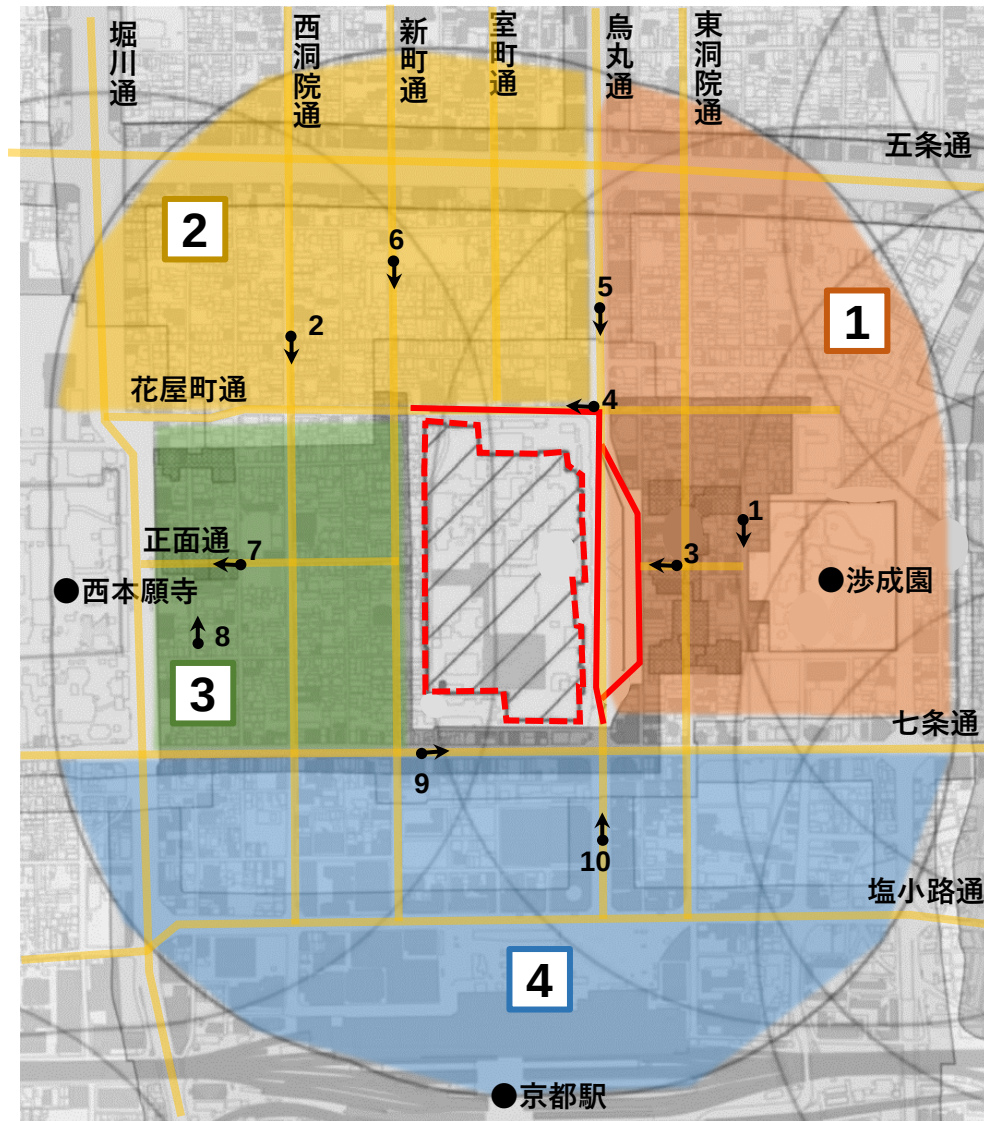
2-2 西洞院から南への眺望
：町家や中低層の建築物が混在している。



2-3 正面通から東本願寺への眺望
：仏具店や旅館などが並び、寺内町の風情がある。



2-4 烏丸花屋町北東から西への眺望
：東本願寺の塀沿いに寺関連施設やホテルが立ち並ぶ。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 烏丸通から南への眺望
：連続する塀と境内や門前の緑が景観を形成している。



2-6 新町通から南への眺望
：点在する京町家が京都らしい景観を構成している。



2-7 正面通から西への眺望
：仏具店や宗教関連施設が立ち並ぶ。



2-8 新町通から北への眺望
：点在する京町家が京都らしい景観を構成している。

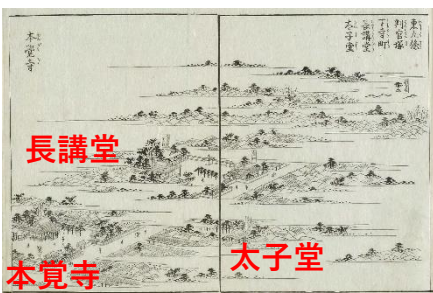


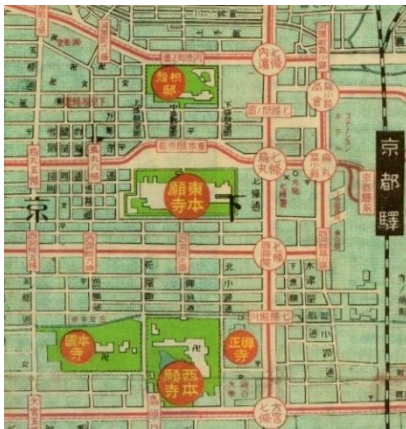
2-9 七条通から東への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。



2-10 烏丸通から北への眺望
：通りの向こうに東本願寺が見える。

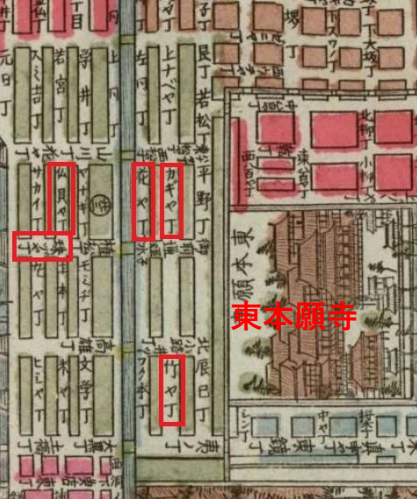
3 東本願寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 東本願寺東側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・旧下寺町と寺内町の歴史に分けられる。江戸期の旧下寺町地区は、豊臣秀吉の京都改造で移転させられ寺院街が形成されていることが、「都名所図会(安永9年)」で確認できる。 ・江戸期の大火で数度焼失しているが再建を繰り返し、現在も当時のままの景観を残している寺院も多い。 ・寺内町には江戸期の町名が残っている。上珠数屋町、花屋町、廿人講町など、寺社と地名との結びつきの強さがわかる。			
イ 町並みの特徴	・東本願寺の東西には仏具店、法衣店、小規模の旅館、他県の詰所など、東本願寺周辺の寺内町らしい町並みが見られる。 ・一方、京都駅付近はビルやホテルが整然と立ち並ぶ。河原町通沿いもビルやマンション、ホテルが多く立つ。 ・渉成園と東本願寺を結ぶ正面通は落ち着いた風情があるが、近年できた新しいホテルや事業所なども見られる。渉成園の敷地沿いは塀越しに豊かな植栽が見える。 ・渉成園との間、花屋町通から七条通までの区域は、古くから商いをしている店や民家が並ぶ。寺院もいくつかあり、落ち着いた町並みである。 文化財等：旧内濱架線詰所(開化堂カフェ)、渉成園、八木仏具店			3-1 都名所図会安永9年(1780)「本覚寺」 
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺 界わい景観整備地区	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	
	東西本願寺の「寺内町」であり、宗教関連用品を扱う商店や町家、寺院等により形成される固有の町並み景観を有する。	両本願寺の寺内町に宗教関連の地場産業の店舗及び参拝者の宿坊が軒を連ねる景観特性の継承を基本方針とする。	両本願寺の寺内町であり、宗教関連の店舗や和風旅館が軒を連ねる風情を継承することを、景観形成の基本方針とする。	3-3 東洞院通の町並み
エ 建築計画等に求める配慮事項	この特色ある景観を維持し又は整備すること。宗教関連用品を扱う店舗及び工房と居住空間の共存する町並み景観の整備を行う。	本願寺に面する建築物は、寺内町の風情を保全するよう誘導する。その他の敷地では、寺内町の雰囲気継承する落ち着いた景観の保全を図る。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。	
				3-4 西洞院通の町並み

2 東本願寺北側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・両本願寺創建とともに江戸期より発展した地域であるが、江戸期には数度大火で焼失している。 ・寺内町としての性格が色濃く、小規模な寺院のほか、仏壇仏具をはじめ宗教関連用品を扱う店が多く立地していた。現在もその名残がみられる。 ・明治37年(1904)に京都市電堀川線の西洞院線が西洞院四条ー京都駅間で開業し、大正期に京都市電整備も整い、昭和初期から宗・商・住一体の地域としてより発展していった(図3-5)。			
イ 町並みの特徴	・東本願寺北側、花屋町通は本願寺関連施設の建物を通りに面して建ち、本願寺の土塀が続く統一感のある景観が見られる。烏丸通や五条通沿いにはビルやホテル・マンションが立ち並ぶ。 ・幹線道路から一歩入ると古民家が密集しており、路地も多い。いくつかの大型の町家残り、事務所や民泊、呉服関連の店などに活用されており、歴史を感じさせる。 ・五条通は、幅員約50mの主要幹線道路であり、沿道にはオフィスビル、マンションなどの高層建築物が立ち並んでいる。東方向には、東山連峰を望むことができる。 文化財等:田中邸(近江屋吉兵衛)、芦田邸			
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観地区	
	両本願寺の寺内町に宗教関連の地場産業の店舗及び参拝者の宿坊が軒を連ねる景観特性の継承を基本方針とする。	両本願寺の寺内町であり、宗教関連の店舗や和風旅館が軒を連ねる風情を継承することを、景観形成の基本方針とする。	清水寺を点景とする五条通から東山への眺望は、京都らしい通り景観であり、こうした景観特性の形成を基本方針とする。	
エ 建築計画等に求める配慮事項	本願寺に面する建築物は、寺内町の風情を保全するよう誘導する。その他の敷地では、寺内町の雰囲気継承する落ち着いた景観の保全を図る。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。	東山への眺望を阻害されないよう、建築物の色彩、屋上、塔屋等の形態意匠に配慮する等により屋上景観の整備に努める。	
				

3 東本願寺西側	
ア エリアの歴史等	・西本願寺の門前町・寺内町であり、西本願寺とともに発展していった地域である。東本願寺と同じく竹屋町、鍛冶屋町、珠数屋町、仏具屋町など生業がそのまま町名の由来となっている町が数多い（図3-9）。 ・信徒用の「客屋十二町」という旅館街にもなっていた。
イ 町並みの特徴	・東本願寺の西側は高い石垣で区切られ、東本願寺への出入り口は無い。 ・京都駅近くではあるが、住宅エリアである。 ・町家が所々に残り、区画の小さい住宅が立ち並ぶ。 ・堀川通近くには西本願寺の寺内町として仏具関連の店や旅館、土産物店などが見られ、現在も西本願寺と大変結び付きの強い地域である。 ・伝道院や龍谷ミュージアムなどもあり、東本願寺と西本願寺を結ぶエリアとして特徴的な景観が見られる。 ・堀川通沿いにはビルが多く立ち並ぶ。 文化財等：本願寺阿弥陀堂、唐門、旧真宗信徒生命保険株式会社本館（本願寺伝道院）、燕庵、本願寺境内（史跡）、大書院庭園（特別名勝）、滴翠園（名勝）、明覚寺、和田邸
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺界わい景観整備地区
	東西本願寺の「寺内町」として400年余にわたり都市生活が営まれてきた歴史的市街地である。仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う商店、しもた屋等の町家、中小寺院の表構え、大寺院の躰等により形成される町並み景観は地区に固有のものである。
エ 求める建築計画等に配慮事項	この特色ある景観を維持し又は整備すること、また多様な宗教関連用品を扱う店舗及び工房と多くの市民の居住空間の共存を図りながらの町づくりや建物づくりの知恵などを評価し、町並み景観づくりに生かすことを目標とする。

参考写真等



3-9 「京都市街新細圖 改正新刻」明治22年(1889)



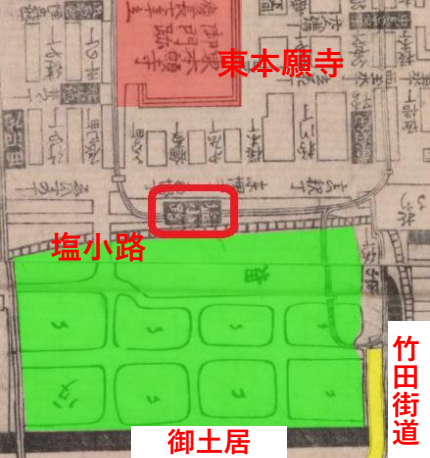
3-10 正面通から東への眺望



3-11 新町通から南への眺望



3-12 油小路通の町並み

4 東本願寺南側		参考写真等	
ア エリアの歴史等	・東塩小路の名は、大同期(809-823)に六条河原院において塩竈を設け製塩が行われ、海水を難波から運んだ沿道にあたり塩小路とよばれたとされる。 ・当村の東と南は御土居に囲まれ、村の東南部を切り開いて竹田・伏見へと至る竹田街道となっている（竹田口）。牛車のための車道も付されて交通の要衝であった（図3-13）。		 3-13 「改正京町繪圖細見大成 洛中洛外町々小名 全」天保2年(1831)
イ 町並みの特徴	・七条通をはさんで京都駅付近には近代的な商業施設やホテルが立ち並ぶ。 ・七条通には近代的な建築物の間に登録有形文化財の富士ラビットや旧鴻池銀行七条支店などの味わい深い洋風建築がある。それぞれ現在も店舗として活用されている。 ・古い町家もいくつか残り、飲食店や事業所として使われている。 ・東本願寺前の烏丸通は道幅が広くゆったりとしており、本願寺の境内建築物が良く見渡せる。 ・烏丸通の東側は新たなホテルが開発されている。 文化財等：旧鴻池銀行七条支店、旧武田家住宅主屋、富士ラビット、若林佛具店ほか		 3-14 七条通西から東への眺望
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺界わい景観整備地区	市街地型美観形成地区	沿道型美観形成地区
	東西本願寺の「寺内町」であり、宗教関連用品を扱う商店や町家、寺院等により形成される固有の町並み景観を有する。	京都の玄関口の周辺として、利便性を求めてホテルや共同住宅等が立ち並ぶ現代的な都市景観を構成している。	京都の玄関口であり、現代的なターミナルとして都市景観を構成している。
エ 求める建築計画等に配慮事項	この特色ある景観を維持し又は整備すること。宗教関連用品を扱う店舗及び工房と居住空間の共存する町並み景観の整備を行う。	京都の玄関口の周辺地域にふさわしい、建築物の色彩、屋上景観等の整備に努め、格調高いデザインとする。また、洗練された形態意匠とする。	駅前においては、歴史都市・京都の玄関口にふさわしい、建築物の色彩、屋上景観等の整備に努め、格調高いデザインするとともに、スカイラインを整え、良好な景観を創出する。
			 3-15 新町通から北への眺望
			 3-16 新町通から北への眺望

3-1 「都名所図会」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「最新京都名勝史蹟地圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-9 「京都市街新細圖改正新刻」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-13 「改正京町繪圖細見大成洛中洛外町々小名全」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）